



2017/8/1 No.75

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

「福祉の街を目指して」 ——創立六十周年の到来を前に——



常務理事 井本 義孝

戦後七十二年、社会事業から社会福祉へと平和憲法の制定と共に、恩恵から権利へと変容し、戦災孤児、傷夷軍人そして廃墟の町から立ち上がり復興の目標を掲げ、児童福祉法、身体障害者福祉法、社会福祉事業法、などの制定によりスタートして今日の福祉がある。

食べるに食べ物なく、着るに衣類なく、住むにバラックの時代を経てようやく社会が落ち着きを取り戻したのは、一九五〇年頃ではないかと思われる。というのは、約二年にわたる朝鮮戦争による特需と、サンフランシスコ対日平和条約の締結により、日本の占領政策の終結となったからである。

年表によれば、昭和二十八年（一九五三年）ドイツMBKミッションにより派遣された数名の宣教師（現木下ドーラ師）により東京において、女性の救済運動が始まり数年を経た昭和三十七年五月現法人ミッドナイトミッションのぞみ会の設立が認可された。ここに今日に至るのぞみ会の福祉活動が始まるので

あり、これからの五年間を考えるに際し（創立六十周年の到来まで）振り返り見ることは、肝要であると思われる。

望みの門学園が創立された昭和三十七年前後から、我が国は大規模総合福祉施設、いわゆるコロニーの建設を都道府県は競って推進した。大阪府の金剛コロニー、名古屋市の愛知コロニー、宮城県の船形コロニー、北海道の太陽の園、国立コロニー望みの園等である。この頃一般的ではなかったが、ノーマリゼーションの理念が時折主張される時代であったが、まだまだ一部にしか滲透していなかった。またコーデイナーターやリハビリテーションの言葉をようやく耳にするようになった頃である。そして昭和四十四年四月十五日に望みの門楽生園が竣工し事業が開始された。

同年同月、今でも不思議に思われるがその頃自分はベテルの土を踏んだ（ベテルとはドイツ北西部にある街そのものが障害者中心の福祉施設ともいふべき町）四月十五日はドイツでの生活が始まった日なので、不思議な神の摂理を思わずにはいられない。三十二年後の二〇〇一年望みの門楽生園園長として就任するとは夢にも思わなかったのである。昭和六十年（一九八五年）には特別養護老人ホーム紫苑荘が竣工した。また平成十一年には（一九九九年）定員二十名で障害者授産施設

設、望みの門新生舎が誕生した。のぞみ会は二〇〇〇年の介護保険法の施行とほぼ時を同じくし、創立者であられた木下弘人先生ご夫妻が惜しまれながら、後進に道を譲られた。以後、第二世代ともいべき人材が用いられ、天父のお導きのまま富津の地から上総の地にわたる事業が展開されてきた。時代は地域共生なる言葉が先行し、今や少子超高齢社会に惹起する様々な社会現象が今後の法人運営の在り方を根本的に問うであろう。措置から契約へ、処遇からサービスへ、運営から経営へ、変化のみならず社会福祉法人の根本的在り方が社会福祉法改正によって大幅に見直しを迫られている。

五年後に到来する創立六十周年を視野に入れ、本法人がますます地域の皆さんと共存共栄し富津の町を、本年創立百五十年を迎えたベールのような福祉の町となることを願わずにはおれないのである。その為には識見、指導力に優れた施設長等幹部職員の自己啓発の努力及び援助、現場職員の献身的働きを支える報酬の保証は不可欠であり、経営の安定を第一に構築することが求められよう。至難なことではあるが、主の啓導を祈り求めつつ進みたい。



東京望みの門 自立援助ホーム マナの家 オープンハウス



指導員 水野 真理

毎月一回（土曜日）、マナの家では退寮生を招いて昼食を共にしています。その月にお誕生日を迎える人がいれば、希望のケーキ（ホールケーキです！）も用意して、たくさんのご馳走が食卓を飾ります。いつもはマナの家の食堂で行われますが、三月は外食することになりました。職員も一緒にランチをすることになりました。二つのテーブルに分かれてしまいましたが、十名ほどが集まり、希望のメニューをあれこれ選び、楽しいひと時を過ごしました。ホールケーキはなかったものの、それぞれ好きなデザートを満喫し、ドリンクで乾杯して、お誕生日をお祝いしました。食後は駅の近くにある公園に行き、季節の花々をみたり、おしゃべりなどをしてゆったりとした時間を過ごしました。

その後は、希望者だけで徒歩三十分ほどかかる大きな神社まで散歩に行くことになりました。退寮生二名、職員二名で行きましたが、途中にお茶屋さんがあり、ほうじ茶のいい香りがしてきて、退寮生のひとりが「ああ、いい香り。寮のほうじ茶が懐かしい。」というのです。こうした何気ないことにも寮での生活を思い出して懐かしんでくれるのかと思うと、心が温かくなる思いがしました。神社は緑が多く、森林浴的な気分になりながら境内を抜け、メインストリートに戻りました。途中に不二家のレストランがあり「あっ、ここでケーキ食べたことあったね。」とか「この道がここに繋がっているんだ。」など、小さな発見もあって、こうしたぶらぶら歩きもなかなかいいなと思いながら帰途につきました。結局、一駅歩いて寮に戻るといふ散歩コースになりましたが、退寮生二人と一緒に生活した仲間でもあり、久しぶりの再会を楽しんだようでした。



毎月のオープンハウスを楽しみにしているのか、案内が着く前に「今月は何日ですか？」と電話をかけてくる退寮生もいます。これからも毎月のオープンハウスを大事にし

て、退寮生の生活を見守っていききたいと思っています。

婦人保護施設 望みの門学園

グループ旅行

作業指導員 鈴木 邦江

六月のバザーが終わって、いよいよ恒例のグループ旅行だ。一泊二日のプランを職員が考え、自分の行きたいプランに希望する方だけが申し込む。今年は、能登方面・軽井沢のサクランボ狩り・房総の南国ホテルの三つのコースになった。

私は、南国ホテルの引率になり、ツアーでないのでは何処へ行くかを考えるところから始めた。幸い一緒に引率する職員が館山に詳しく、細かいアドバイスをしてくれた。職員の考えたプランではなく、何処へ行ってみたい利用者皆



で話し合ってコースを考えることにした。

そこで、一日目の昼食先に保護している犬猫に触れられるレストランを選んだ。皆、犬用のエサを手から与えたり、猫のモフモフな毛を撫でたり、笑顔がみられた。その後、チェックインまで時間があるので伊衛門島までちょっとドライブ。ツアーでない強みだ。ホテルでは、カラオケ・ゲームを楽しむ方々のんびり寛ぐ方、それぞれ好きな過ごし方をしていた。二日目、城山公園でオウムや孔雀を見たり、沖の島で砂浜を歩き、大きく翼を広げて優雅に舞うトンビを眺めながらのゆったり流れる時間がとても心地良かった。その頃、学園では害虫駆除のため、旅行を希望していない方々が木更津イオンへ外出。こちらにも楽しんでいるもののやはりイオンは魅力的！私達も館山イオンへ行き昼食をとり、道の駅に寄りながら帰路に就いた。学園が近づくに楽しかったあ、帰りたくない！と言われ、嬉しくもあり少し辛くもあった。

本下記念学園の調理員から、学園の作業指導員に異動になり半年が過ぎた。初めに驚いたのは、厨房職員でも会議に出たり、引率をしたり報告書も書く。学園は職員全員で話し合い、担当を決め目標に向かう。それでも、わからないことがあると誰かが助けてくれる。まるで大きな家族のようだ。これから

利用者の方々に楽しい思い出をたくさん作って貰えるように努力したい

養護老人ホーム 望みの門楽生園

楽生園の皆さんと



生活相談員 長嶋由紀子

今年の四月よりデイサービスセンターより養護老人ホーム望みの門楽生園の生活相談員として異動となりました。入所者からの相談は、歩んできた人生が背景にあることが少なくありません。またその背景をなすものに、本人の心身状況特に障害の有無や、そのことに起因する当時の家族関係、教育制度や地域社会等の価値観が影響している場合もありますので、高齢者福祉領域・援助技術関連領域だけでなく、他の福祉領域や社会・文化面についても理解を深めておくことで、単なる傾聴にとどまらない共感をベースにした相談支援が展開することが求められています。

しかしながら、法制度の改正以降の養護老人ホームを見ると、入所者の重度化やニーズの多様化等々の状況が影響し、それ以前に比べ介護という視点があまりにもクロースアップされ、場合によっては他の生活課題が矮小化して捉えられているといった現状があり、

特養の待機施設になることを恐れています。介護ニーズへの対応は、個人の尊厳の保持にとっても大事であることは確かですが、介護サービスを利用しつつ、より広い意味での自分らしく生きることを支える、つまり生活Ⅱいのちを支えるための生活の質を高めることがより重要です。養護老人ホームの生活現場では、入所者の心身機能低下の深刻化・重度化、生活ニーズの多様化、認知症等の精神症状を有する入所者の増加等が支援における課題となっています。職員一人ひとりが自らの業務について責任を持って遂行していくだけでなく、連携により生み出される「協同・協働・共働」する生活支援チーム作りを目指します。



特別養護老人ホーム 望みの門 紫苑荘 介護の仕事



介護員 森 悦子

私は紫苑荘で働くようになって、一年半がたちました。以前働いていた職場を定年で退職して、初めて福祉の仕事をするようになりました。

自分の年齢のこと、体力のことなど、色々不安はありましたが、利用者の皆様の表情を見、一緒に働く先輩方に教えられ、助けられ、時には注意されることもありましたが、少しずつ仕事を覚えていきました。

誰でも、新しい事をする時は大変だと思えますが、人一倍物覚えの悪い私は、利用者様にも、先輩方にも迷惑をかけてきました。しかし、忍耐して教え続けてくださった事、感謝しています。

利用者の皆様には、私の不慣れな介護に、つらい思いをされていたのではと心痛む思いもしました。ある時、移乗の難しい利用者様を私一人で移乗した時のこと、認知症もあり、あまり言葉を発することもない方でしたが、無事移乗すると「できたね」と喜んで言われました。

私はハッとしました。利用者様が私の介護

の仕方や、不安なども分かっておられたと感じ、この方々が安心して身をまかせられるように介護の技術を身につけてい



かなくとは思いました。また、年齢を重ねていくと不自由なことが増えたり、忘れてしまうことも多くなっています。しかしやさしい言葉をかけて下さったことに感謝すると同時に、どんなに症状が重いように見えても、思いやりの心を忘れない利用者様に感動し、ここで生活されている皆様が快適に過ごして頂けるよう介護していきたいと思っています。

また、老人福祉の仕事をしている友人から言葉をもらいました。「私はプロの介護士、私の立ち位置は支援者」この言葉に身が引きしまる思いがします。私は、たくさんの方々に支えられています。自分の立ち位置にしっかり立って働いていきたいと思っています。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

ご支援くださる皆様へ

施設長 簾 昭博

京葉後援会並びに施設行事に御協力頂いているボランティアの皆様は、誠にありがとうございます。日頃よりわたくし達のぞみ会に連なる利用者ならびに職員のために祈り支えて下さり有難うございます。

特別養護老人ホーム望みの門富士見の里は、お陰さまで、七月一日をもちまして開設満五年を迎えることができました。開設前より本紙面にて富士見の里の開設及び運営展望についてご案内させていただき、これまで大勢の方に祈り支えて頂いたことを思



うときに、キリストにあっての交わりの尊さにあらためて気づかされるとともに、地域の一員として受け入れて下さっている地元の皆様、更には、折に触れ施設行事に彩りを添え支えて下さっているボランティアの皆様のご理解の大切さを感じずにはいられません。

わたくしは職員は、まだお会いしたこともない多くの方々にも思いを共にしていただいている事に更なる力を得て、今を共に生きる人生の先輩方の安心した生活を保障すべくこの地域に遣わされた者として、互いの存在を慈しみ、労り、慰め、歩ませていただきましたと思います。

職員は、それぞれの個性を生かしつつ満身創痍努めさせて頂いております。しかし、それぞれが、日々の働きの中に満たしを覚えつつ、ストレスと上手に付き合ひながらバランスを取って就労継続するには、更なる働き人が必要です。どうぞ、この事を覚えて下さり、良き働き人が起こされるように、祈り、そして、ご紹介いただければ幸いです。

施設という一つの生活の場で時を共にしている、ご利用者と職員の日々の歩みの中に、主の御栄光が益々現われ、一人一人がそれを感じ、感謝することが出来ますように。



老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

デイサービスの..... 介護職員、始めました。

介護員 山本 朋美

今年の四月、人事異動でデイサービスセンターで初めての介護職に携わることになり早数ヶ月がたちました。まず利用して頂いている方々のお顔とお名前を覚えることから始まったデイサービスでのお仕事ですが、約十年間勤務した望みの門新生舎での最初のお仕事も確か利用者さんの顔と名前を必死で覚えることだったなあと思います。慣れない介護職勤務が一からスタートしたのです。

利用者さんのご自宅までお迎えに伺うのも大きなお風呂で入浴のお手伝いをするのも初めての経験ですが利用者の方皆さん、当の立った新入り職員にとっても親切にして下さり助けて頂きながら何とかやっていけている段階です。初めて介護と向き合うことになったご家族が戸惑い、まず最初に利用する社会福祉事業がデイサービスという方は少なくないと思います。

入浴介助、食事の介助、体操やレクなど様々な場面で利用者の方たちと関わりを持たせてもらいながら色々なお話しをお伺いするなかで介護をなさるご家族のご負担はもちろんで

すが介護を受けるけられる側の利用者さんもご家族の方への気を遣われているなあと感じ取ることが度々ありました。望みの門デイサービスセンターを利用して頂くことで利用者さん、ご家族の皆様双方の様々な負担が少しでも軽減して頂けるようにお手伝いできればと考えています。

また、デイサービスで過ごす時間を楽しく感じていただけるよう自分の得意とするお菓子作りや創作活動などご利用者の方々と一緒に取り組んでいきたいです。

利用者さんからの「ガンバッテね」の励ましのお言葉や「ありがとね」のお言葉が心に染みる今日この頃。これからも自分の出来ることをコツコツと頑張りたいと思います。



テレワーク

訪問看護ステーション 望みの門訪問看護ステーション



理学療法士 阿部 忠之

訪問看護ステーションの阿部です。理学療法士としてリハビリテーションをおこなっております。

私は非常勤という立場で働いております。紆余曲折があり、加えて上司の方々の計らいで、現在は自宅から利用者宅へ直接訪問するという勤務体系を取っております。瓢箪から駒でこの体系により、勤務時間の短縮と交通費の節約（移動距離の短縮）に繋がることになりました。私の家から望みの門前ではとても遠く、片道三十kmになります。

かつては一度望みの門に出勤してから訪問、更に望みの門に戻ってから帰宅というルートでした。現在は家から直接訪問に伺い、ルート・訪問時間を調整して最後に望みの門に到着、その後帰宅としております。また、望みの門からかなり遠い利用者宅訪問のみの場合は自宅直帰で後自宅より業務報告という手段も取っております。後者はまさに今はやりのテレワークです。これは同僚の看護師さん達との協力・連携があってではありますが、私とはとても画期的だと感じました。

七月より訪問看護ステーションは新所長体制になり、業務効率化・改善はもちろんの事、今後訪問記録ソフトも変更の予定であります。完全電子化されれば、更に作業効率は高まるでしょう。

地域密着を唱えるのぞみ会ですが、訪問事業の遅れは否めません。平成三十年度には介護報酬や医療報酬の改正が予定されております。芳しい噂が少ない中、訪問事業（訪問介護、訪問看護）は国が力を入れている数少ない部門です。今回、紹介させていただいたようなプチでも働ける労働者の確保、新たな労働環境の提供なども検討していただき、真に地域に根差したのぞみ会を作り上げて頂きたいと思います。



就労継続支援事業 望みの門 新生舎

仕事も遊びも全力投球

事務員 高橋 彩乃

「今日も元気にマイク口で、共に来るのは新生舎へ自立を目指し働こう♪」この歌を利用者と職員で歌い新生舎の一日が始まります。新生舎では働くことを基本に取り組んでいますが働いた後の喜びも概ね毎月一回体感できるようにいろいろな行事を催しています。今回は「新生舎の行事」をちょっとしたエピソードを添えていくつかご紹介いたします。

新生舎では年に二回ほど利用者さんご家族と行事を通して関わることのできる機会があります。その内の一つにあたる新年会が今年の一月に開催されました。この新年会は家族会が主催で会場の予約から催し物の企画までしていただき、当日は美味しいお食事をいただきますながらご家庭での本人の様子を伺ったり、困っている事を聞いたり、カラオケをして、お酒を飲んだりと、本人・家族・職員が一堂に会し親睦を深めます。今年の新年会は新生舎きってのお酒の大好きな利用者さんが集まって近くにあったビール瓶が気づくと何本も空！なんてこともありました。ちょっと酔った利用者さんも楽しかったですね。今で

は笑い話です。撮った写真を見返しても笑顔であふれる新年会でした。

二月は作品展があり
品展がありました。一年を通して一番大きな作品展で、



連日四日間のでんやわんやが終わった後は利用者の方も職員も疲れが見え隠れ。仕事を頑張ったらやっぱりご褒美がほしいですよ、出るか否か施設長次第：施設長みんなにご褒美出ますか？行事でどこかに行きますか？この答えは後の楽しみにとっておきましょう。

これからもっと暖かくなると潮干狩りに出かけたりもします。潮の引いた砂浜に無言でアサリを掘る集団があちらこちら。表情は皆真剣。どの利用者さんも「あったー！見つけたー！」と嬉しそうに教えてくれる無邪気な姿を思い出します。今年は残念ながら雨となり、急遽イチゴ狩りに変更しています。いろいろな品種を食べ比べお腹いっぱいになって

帰ってきました。

さらに暑い八月にはサマーキャンプを開きます。二泊三日新生舎に寝泊まりし夏の思い出を作ります。家庭を離れたお泊まり会は一年にこの一回だけ。この行事を楽しみにしている人、開催前に職員が家庭を訪問しご家庭の後押しを得てようやく参加になった人、参加したかったけど都合で参加できなかった人、一人ひとり違った思いの中参加したキャンプでしたが始まってしまえば思いっきり楽しんでる利用者さんがいっぱい、参加するの躊躇していた人も何のことはなく楽しんでいました。今年も仲間と共に協力し過ごす夏がやって来しました。この経験はまた一歩利用者を自立させてくれることでしょう。仕事も遊びも全力投球。自分の力で働く、自分の力で遊ぶなど、これからも様々な経験を積み重ね大きく成長してくれたらと思います。

児童養護施設 望みの門かずさの里

二年目の歩み



保育士 高梨 麻美

かずさの里で働いて一年が経ちました。あっという間の一年間でした。子どもたちと一緒に成長してきた一年間でもありました。

就職した当初、何もわからない私は何かにつけて失敗を恐れていました。職員としてどのよう子どもと接すればよいのか、中学生や高校生との関わりに戸惑いを感じていました。しかし、何気ない言葉がけから会話が進んだ時は、新米職員として、一人の大人として、とても嬉しかったことを今でも覚えています。かずさの里では、一年を通して様々な行事があります。行事一つをとっても私には全てが初めてで不安でもあり楽しみでもありました。施設内外にて、参加する行事への思い、嬉しさ、楽しさが人一倍あり、この上ない笑顔を見せてくれる時があります。その子どもたちの笑顔にいつも私は仕事のやりがいを感じているところです。

その反面、子どものさりげない一言や行動が理解できず、悩む時があります。就職した当初は特に悩みました。二年目となった今は、



子どもと関わる時間も増え、その子その子の表現の意味、思いが少しずつ理解できるようになってきました。悩むことは日々ありますが、先輩職員の方に相談し、一緒に考え行動しています。その中、子どもとの信頼関係を、職員との信頼関係を築き上げる大切さを、改めて考えさせられています。

先輩職員の様に、子ども一人ひとりのライフストーリーに応じた関わりを持つことはまだ出来ませんが、少しずつ子どもたちの心に寄り添ってゆければと思います。まだまだ未熟なことばかりですが、一年目をしっかり振り返り苦い経験、学び得たことをまず受け止めたいと思います。二年目の中、一日一日、更に努力を重ね、子どもたちの成長を支えられる職員を目指したいと思っています。

乳児院 望みの門方舟乳児園

こどもたちの笑顔



看護員 足立 利江

今年の夏も方舟乳児園の庭には朝顔が咲き、二年越しのハイビスカスも大きな花を咲かせています。もちろん畑にも、こども達好きなトマトやナス、あまり得意ではないきゅうりを植え、皆で大事に育てています。

子ども達は毎日、暑さの中真っ赤な顔をしながら野菜やお花に競い合って水撒きをしています

そのあとには、赤くなるのを待ちきれず青いトマトの実が収穫されていきます。こんな何気ない毎日の出来事が微笑ましく思えてしまいます。

今では当たり前のように、元気に外で大きな声で笑いながら遊んでいる子ども達ですが、方舟に来た時は表情も無く、笑う事すら出来ない子もいました。

方舟乳児園で過ごす時期は、「生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期」であり、身体感覚を伴う多様な経験が積み重なる事により、豊かな感性と共に、好奇心、探究心、思考力が養われると言われています。

またそれが、その後の生活の学びの基礎になります。そして



う一つ大切なのが、人格形成に影響を及ぼす「愛着関係」です。特定の人物との間に形成される精神的な絆「基本的信頼感」「安全の基地」を築くことが重要となります。

こども達が自ら発達してゆく力を認め、その姿に寄り添いながら、子ども達の可能性を引き出してゆくことが、私達の使命なのだと感じています。

発達は樹木モデルと言われるように、根っこが同じで枝分かれしていくようなもので、言葉が発達するためには運動能力発達や、知的な部分でも発達しなければなりません。一つの事だけを見てしまいがちですが、発達の順序性や連続性を踏まえ、長期的な視野を持ち、見通し、子ども達が今楽しんでる事を共に喜び、それを繰り返しながら発達の援助をし、子ども達の笑顔を守っていききたいと思っています。

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

こどものあそび



心理相談員 福原 麻衣

望みの門ピーターパンの家に勤めて四年目になりました。入職当初は相談業務って何をしたらよいだろう、子どもとどうかかわるの

が正解だろう…と右も左もわからぬ中で、疑問や不安がある度に先輩方から助言を頂いたり、子ども達から教わったりと学びに溢れた日々を過ごしてきました。

さて、今回そんな私の仕事の一部をお話ししたいと思います。相談時は主に保護者は相談支援員と面談を、私は主に子どもを担当し、プレイルームで遊びを通して心理療法を行います。遊びを通して子どもの発達の状態や個々の特徴を捉えたり、不安な気持ちをほぐす活動を行ったりします。時には発達を促す関わりも行います。子どもは遊びの中で物事の仕組みや概念、社会のルールなど多くの事を学びます。

まだお話をしない二歳のAちゃん、ある日様々な形の穴に積み木を入れる玩具で遊んでいました。初めは積み木を手持っては置いてを繰り返すのみでしたが、繰り返すうちに手に持っていた積み木がたまたま穴の中に落ちました。持っていた物が視界から消え、不思議そうな顔をするAちゃんは再び積み木を持ち今度は穴の近くに手を伸ばします。しばらくするとまた穴に入ります。不思議そうな表情をしていたAちゃんにはこりと笑い目をキラキラ輝かせていました。次からAちゃんは積み木を穴に落とすようになりました。そうです、この玩具の仕組みが分かり積み木

を穴に入れる面白さを知ったのです。キラキラした目からは「できたよ!」「楽しい!」と感じているのがよくわかります。私は何かを達成した時や新しいことにチャレ

ンジした時に子どもが目をキラキラさせるこの瞬間が大好きです。子どもがキラキラと目を輝かせた時、学びが多く成長する時だからです。

保護者の中には子どもの発達について、本やインターネットで調べ「自分の子には障害があるのではないか」と不安になる方もいます。ですが、「子どもはまだまだ発達途上で成長する伸び代は十分にあります。その中で、さっきできなかった事が次の瞬間には出来るようになっていく!という事がいくつもあるのです。今だけを見て悩むより、子どもが目



をキラキラさせる瞬間を一緒に探しませんか。キラキラした目、が見つけれられるようになったなら、今ここにいるこの子へ今日明日どのように接すればよいかが見えてきます。そしてもしもその瞬間に出会えた時、きっと大人も目を輝かせていると思います。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園 児童心理治療施設の スタッフとして

副施設長 佐京 正範

『木下記念学園勤務を命じる』

辞令を拝受したものの、私の立ち位置は児童心理治療施設（旧情短）を知ることから。入所児童の記録を開き……。子どもたちの生き様は、発達障がいに加え幼少時の家族関係の混乱。虐待を受ける土壌が揃っていた中で、耐えて生き抜いてきた記録でした。児童養護施設、児童自立支援施設、児童精神科、自宅など前生活場所は異なりますが、どの子どもも発してきたのは悲鳴のほうです。濃い記録が残る子どもたちから、先ず「ワタシたちの支援が出来るの？」と覚悟を迫られた気持ちになりました。

通常、家庭での育ちが困難とされる養護ケースの入所は、児童養護施設では十八歳退

所を想い描きながらの養育であり、社会的養護の1ケースといえます。その育ち直し支援をする過程で、不登校、社会・集団不適応、規範意識の低下など様々な行動を表す子どもがいます。養護施設、里親、学校、家庭、暮らしの場を問わず、そのような『治療を必要とする症状』が出ている子どもが児童心理治療施設の対象児童となります。教育の場、医療の場、暮らしの場の三位一体。この総合環境療法と云われる心理治療によって症状を緩和していきます。

当然、子どもが求める大人は養育論だけではなく、教育論、発達障がいへの支援技術、薬効、知能・発達・心理検査や心理治療、愛着とは……トラウマとは……といった知識と、万引きを繰り返そうが無断外出を繰り返そうが、とことん付き合う大人です。児童福祉に必要なモノの集大成・範囲が広すぎ……！これが一番最初に発した私の声となりました。

入職直後に県外施設への研修を命じられ、テーマを絞り鳥取県の児童心理治療施設に二週間お世話になって参りました。そこは開設後に施設崩壊。立て直しの苦しみ。どんなケースにも向き合い疲弊していく職員。そして子どもが混乱する原因、疲弊し続ける職員集団の原因を探り、進化し続ける現在。失敗を積んだからこそ、本質を掴んだ素晴らしい施設

でした。

当施設は昨年五月開設後、行為障害の行動化（破壊、暴力、無断外出）が続き、職員のバーンアウトも引き起こす機能不全が起こっています。当時の生々しい記録を読み解いていくと、この経験を越えて、なおも最前線に立つ現場スタッフには

敬意の感情が自然と沸きます。当たり前の暮らしを見せることが、如何に難しいかを感じてきたスタッフたちです。強いリーダーシップの下、上意下達で引張られてた初年度から、スタッフ主動にて運営していくスタンスにどうすれば辿り着けるか。これまでとは異なる悩みと苦しみ、そして必ず楽しさが待っているはず。私も福祉従事者としてわずか二十六年間。一人で出来る事などあるはずもなく、スタッフたちと共に歩み、藻掻いて



いきたいとの思いです。

ケースの本質を捉える知識。ブレない為の引き継ぎ。職員の感情共有。ケースカンファの目線と意見の濃さ。そして職員を大事にする意思。あらゆる所に意味のある仕組みや仕掛けがあり、その全てが子どもが第一。理想は口にしないうと近づかないとの思いから、県外で学んだこのような理想ばかりを語ることから始めています。

現在、児童家庭課、児童相談所を始め、児童福祉施設からも厚い見守りとご協力を頂戴しております。落ち着いていく子どもたちの姿のみならず、我々スタッフの成長をご覧頂くことで安心・安全な施設として認知され、新規受入や小規模グループケアへの移行が進むものと思っております。

平成二十九年七月、我々は新たなステージに進む準備を、本格的に始動することをご報告致します。



社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 平成28年度 決算報告

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	697,646
固定資産	3,145,108
(基本財産)	2,342,326
(その他の固定資産)	802,781
資産の部合計	3,842,754
負 債 の 部	
流動負債	105,297
固定負債	876,148
負債の部合計	981,445
純 資 産 の 部	
基本金	723,021
国庫補助金等特別積立金	805,432
その他の積立金	552,651
次期繰越活動増減差額	780,202
(うち当期活動増減差額)	132,525
純資産の部合計	2,861,308



事業活動計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
サービス活動収益	1,643,077
サービス活動費用	1,510,864
サービス活動増減差額	132,213
サービス活動外収益	9,202
サービス活動外費用	8,126
サービス活動外増減差額	1,076
経 常 増 減 差 額	133,289
特別収益	6,313
特別費用	7,077
特別増減差額	△ 763
当期活動増減差額	132,525
前期繰越活動増減差額	726,677
当期末繰越活動増減差額	859,202
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	0
その他の積立金積立額	79,000
次期繰越活動増減差額	780,202

資金収支計算書 (単位：千円)

科 目	金 額
事業活動収入	1,651,752
事業活動支出	1,414,181
事業活動資金収支差額	237,571
施設整備等収入	44,137
施設整備等支出	64,071
福祉事業活動収支差額	△ 19,933
その他の活動収入	1,957
その他の活動支出	80,193
その他の活動資金収支差額	△ 78,236
当期資金収支差額	139,401
前期末支払資金残高	538,256
当期末支払資金残高	677,657

※ホームページ

http://
www.nozominomon.or.jp/

望みの門バザー収支報告

2017/ 6 / 3

単位：円

収 入		支 出	
中古衣料	310,668	材 料 費	289,561
雑 貨	558,137	雑 費	330,194
ベーカリー	199,140	通 信 費	1,394
屋 台	316,448	本部繰入金	1,042,444
新 品	57,960		
家 具	25,800		
その他収入	26,140		
寄 付 金	169,300		
収 入 計	1,663,593	支 出 計	1,663,593

右記のとおり報告いたします。

望みの門支援バザー実行委員会

委員長 田尻 隆

バザー報告

六月三日（土）今年も望みの門バザーを開催することができました。

尊い献金・献品を頂戴しました皆さま、当日ご来場いただきましたお客様、ボランティアの皆さま、またお祈りのうちにバザーをお支え下さったすべての皆さまに心より感謝いたします。

なにかとご不便をおかけしたと思いますが、今後とも望みの門をご支援いただけると幸いです。



中核地域生活支援センター 君津ふくしネット
in2017を終えて

センター長 山口 誉典

平成二十九年七月二十一日（金）千葉市生涯学習センターにて「第五回中核地域生活支援センター大会」を開催し、関係者をはじめ約三百名の方にご参加いただきました。今回は、

若者たちの直面している貧困問題を中心に据え、「若者たちの見えない貧困を考える『我が事・丸ごと』の仕組みづくり」にむけて」をテーマに、若者の貧困問題に先駆的な取



編集後記

り組みをされている方々をお迎えし、取り組みの内容と、そこから見える問題提起をしていただきました。ご講演のなかで、それぞれのお立場で、当事者とともに問題に向き合い、寄り添うことを大切にしながら活動されていること、関わりを通じて見えてくる新たな問題にも、積極的に取り組んでいかれる姿が印象的でした。今大会は、支援者の多様性、表面化していない問題といかにつながるか、当事者への寄り添い等をあらためて考える大会となりました。今回、事務局として君津ふくしネットが準備を進め、無事に終了することができました。そこには、当法人全体からのバックアップをいただきましたことが大きな力となりました。あらためて、感謝、御礼申し上げます。

君津ふくしネット職員一同

望みの門学園では来る九月十八日（月・休）千葉市民会館で開催される「千葉県教会音楽祭南ブロック」で発表する讃美歌を連日練習しています。今年は木下勝世副理事長に歌唱指導を仰ぎ例年ない盛り上がりを見せています。副理事長によると学園の皆さんの発声はカナダエスキモー（イヌイット）の発声に似ているそうです。素晴らしいお褒め？の言葉頂きました！乞うご期待。

(T2)